

登山学校レポート（第6回講習）脊梁一泊縦走

田中敦典・福岡勤労者山岳会

【日程及び場所】10月22～23 脊梁山系（国見岳交差縦走）

【1日目】 9：00登山口→14：15後平家山→16：20ビパーク地点

【2日目】 7：20ビパーク地→8：15国見岳→12：00広河原登山口→14：05登山口

今回は、全体が2チームに分かれ、それぞれがルートの反対から登る交差縦走であった。自分はAチームで、山行中は、先頭を約1時間ごとに交代しながらコースリーダーらしきことをしたが、実際はルートが分かりにくく、道を探すのに精一杯で、ついついペースも早くなりがちであった。もう少し後ろに注意を払いながらメンバー全体を見ておく必要があった。休憩時間についても講師の方々から指示をもらいながらであったため、主体的にリーダーシップを発揮することはほとんどなかった。受講生のチームとしては、休憩ごとに3人で地図とコンパスを出してルートの確認や位置合わせや目的地の設定を行う事ができたので良かったと思うし、とても勉強になった。

地図読みに関しては、毎回のことだが自分の事前の地図の作成が全く不十分であった。現在地を把握するために尾根や谷はもとより標高など細かい書き込みに関して、他の受講生や講師の方々の事前の詳細な地図の作成に学ばされることばかりだった。また、山行中に講師の方々に細かな地図読みの仕方を教えていただくことができたことは本当に勉強になった。地図の等高線に現われない地形があること、他の尾根に迷い込まないように地図を読み、何メートル位進んだらどのような地形が現れるか予想し、そのことを頭に置いて歩くこと、砂防堤や急斜面、どの程度の尾根や急斜面があるのかを地図から読み取って行くことなど、通常の山行ではとても学べないことを沢山学ぶことができた。

危険個所については台風や大雨の影響で寸断されたルートや崩落した橋があったため、一カ所急斜面を講師の方にロープで確保していただきながら下った。もう一つ橋の崩落のため登山靴を脱いで沢を渡渉した。靴下の予備があれば靴下を履いて渡渉した方が足の裏が痛くないように、石の上も滑りにくいことを教えていただいた。

ツエルトはこれまでも常時持参はしていたが、実際にツエルトを張ってその中で寝るとするのは初めてであり貴重な経験になった。他の受講生は軽量化のために積極的にツエルトを利用しているという事で、設営も手馴れていた。非常時に手早く張れるようにもう少し平日頃から積極的に使ってみたい。また、今回の大きな経験の一つは焚火での食事づくりである。竈門の作り方から薪の選び方、火の起こし方、鍋や飯盒の掛け方、後始末の仕方、そして山中で見つけたキノコを調理して食べるという事まで初めての経験ばかりで、満天の星空の下、美味しく、楽しい食事となった。

今回もたくさんの学びと新しい経験を与えてくださった講師の方々と受講生の仲間に心から感謝します。

